211021時点

千葉市
CHIBA CITY

CHIBA CITY
100th ANNIVERSARY
1921-2021

第１回
千葉市新みどりと水辺の基本計画策定委員会

令和3年10月25日（月）13：30～

千葉市役所本庁舎　８Ｆ正庁

議事次第

1　開会

2　会長・副会長の選出

3　新たな計画の諮問

4　議題（新たな緑と水辺のまちづくりプラン）

千葉市緑と水辺のまちづくりプラン

○ 緑と水辺に関する総合的な計画

・千葉市の緑と水辺について、
目指すべき姿や、各種取組の方向性を示すもの

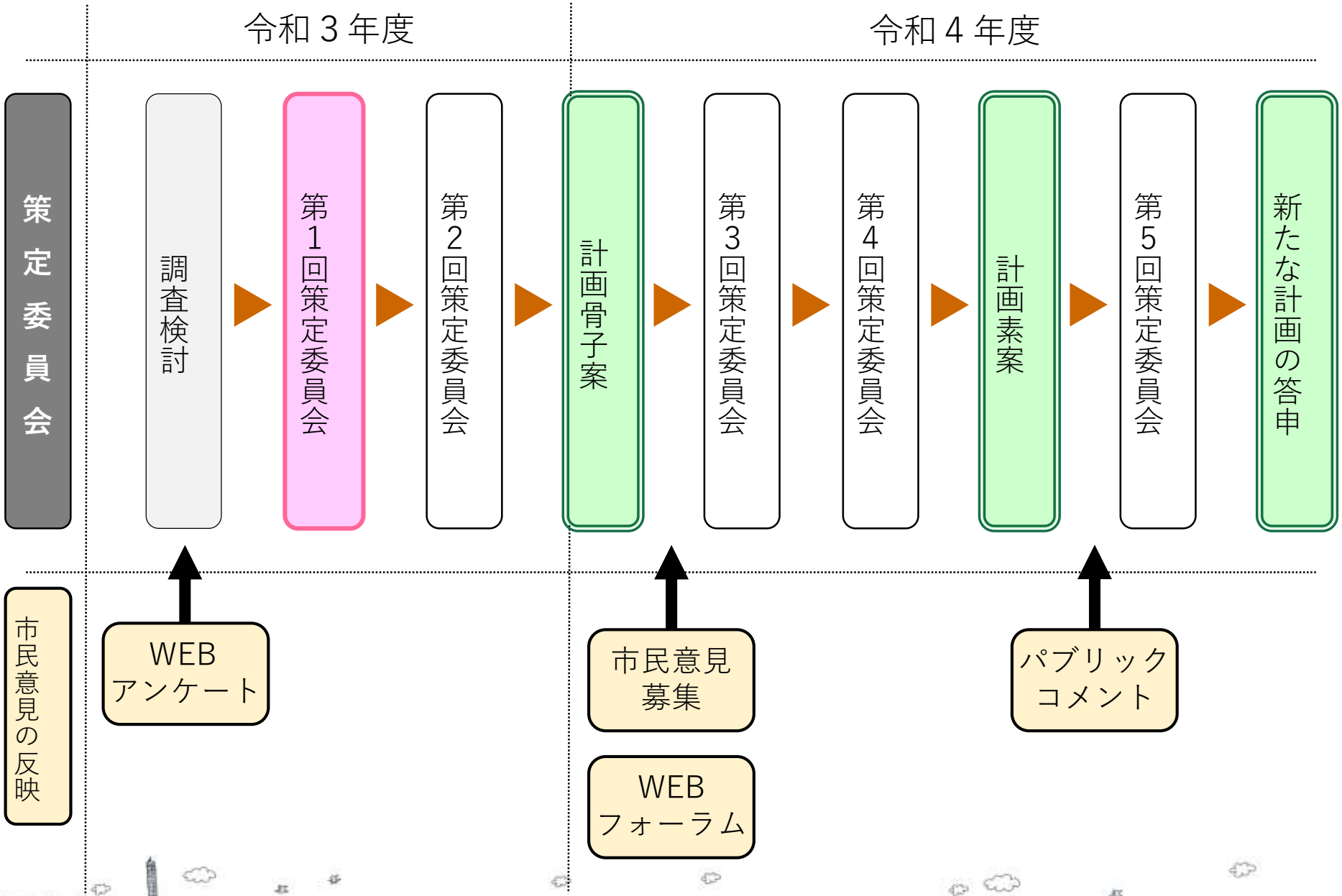
・都市緑地法に基づく、
緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画

（これまでの計画）

年　月	計画の名称
昭和55年3月	千葉市緑のマスタープラン策定報告書（原案）
昭和62年3月	千葉市緑と水辺のネットワーク21世紀計画
平成9年12月	千葉市緑と水辺の基本計画
平成24年3月	千葉市緑と水辺のまちづくりプラン

令和5年4月	千葉市緑と水辺のまちづくりプラン2023（仮称）

新たな計画策定に向けたスケジュール



令和３年度の審議事項

○ 第１回策定委員会：現状や課題、取組の方向性等
第２回策定委員会：取組の方向性等、施策の方向性を議論

第１回策定委員会

第２回策定委員会

説明事項

1 現計画の概要と取組

2 緑と水辺の現状と課題

3 取組の方向性等

4 施策の方向性

計画骨子案

説明の流れ

1　現計画の概要と取組状況

2　緑と水辺を取り巻く状況と課題

3　新たな計画策定に向けたポイント

緑と水辺のこれまでのまちづくり

○ 現計画（千葉市緑と水辺のまちづくりプラン）

（テーマ）　　みんなの手で育みつなごう！緑と水辺

（サブテーマ）　縄文より続く住みやすさ日本一のまちを次代に

緑と水辺のこれまでのまちづくり

民間活力を導入した施設づくり

市の花「オオガハス」の系統保存

緑化推進の人材育成

大規模な公園　商業地の緑　街路樹　身近な公園　花の空間　市民の森　大規模な公園　身近な公園　里山、森林・林

海辺・港、浜辺　川辺　住宅地や工業地の緑　谷津田、畑

こどもがのびのびと遊べる公園の拡充

住宅地の緑化の推進

谷津田の保全

緑と水辺のこれまでのまちづくり

○ 現計画（千葉市緑と水辺のまちづくりプラン）

市民実感と緑の確保に関する成果指標

指　標	平成21年度（当初）	**平成34年度(目標)**	**（現状）**	備考
市民実感に関する指標				
市内の花や緑が豊かと感じている市民の割合	62.3％	**7割以上**	**75.3％**	調査時点は平成30年度
身近な水辺に親しみを感じている市民の割合	36.4％	**4 割以上**	**40.2％**	調査時点は平成30年度
緑の確保に関する指標				
緑被地の確保目標	13,302ha 48.9%	**現状維持**	**13,218ha 48.6％**	調査時点は令和2年度
市街化区域内の緑地の確保目標	1,330ha 10.3%	**1,410ha 11.0%**	**1,340ha 10.4%**	調査時点は令和2年度

緑と水辺のこれまでのまちづくり

○ 現計画（千葉市緑と水辺のまちづくりプラン）

市街化区域内の緑地の確保目標

指　標	平成21年度（当初）	**平成34年度(目標)**	**（現状）**	備考
緑の確保に関する指標				
市街化区域内の緑地の確保目標	1,330ha 10.3%	**1,410ha** **11.0%**	**1,340ha** **10.4%**	調査時点は令和2年度
内訳				
公有地での取組	849ha	**890ha**	**903ha**	・都市公園 ・ｽﾎﾟｰﾂ広場 等
民有地での取組	481ha	**521ha**	**437ha**	・生産緑地 ・保存樹林 ・工場等緑化協定 等

注：市街化区域内の緑地確保目標は、有効数字３桁とし４桁目は切捨て
切捨てた数値は、民有地での取組で調整

説明の流れ

1　現計画の概要と取組状況

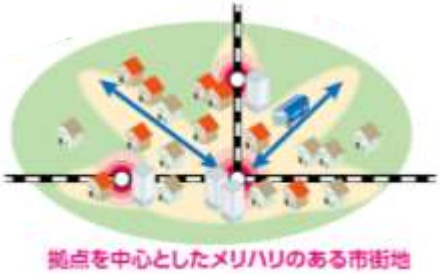
2　緑と水辺を取り巻く状況と課題

3　新たな計画策定に向けたポイント

緑と水辺を取巻く状況（社会経済情勢）

○ 都市のｺﾝﾊﾟｸﾄ化と
都市の活力維持が必要

人口減少・少子高齢化の
進展

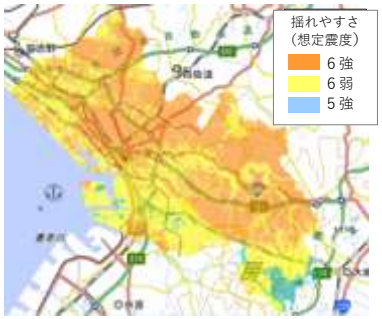


○ 自然災害の激甚化

自然災害に備えた
まちづくり

令和元年9月台風15号被害

地震・風水害ハザードマップ



○ 新型コロナウイルス感染症

新型コロナを契機とした
ニューノーマルなまちづ
くり

ニューノーマル　グリーンライフ（都市緑化機構）

緑と水辺を取巻く状況（法改正等の状況）

○ 平成26年8月　都市再生特別措置法等の改正

立地適正化計画、**ｺﾝﾊﾟｸﾄ＋ﾈｯﾄﾜｰｸの推進**

○ 平成28年5月　新たな時代に対応した公園等のあり方検討会（国土交通省）

緑の有する多機能性をまちづくりに活かす
①ｽﾄｯｸの効果を高める、②民との連携を加速
③都市公園を一層柔軟に使いこなす

○ 平成29年6月　都市緑地法、都市公園法等の一括改正

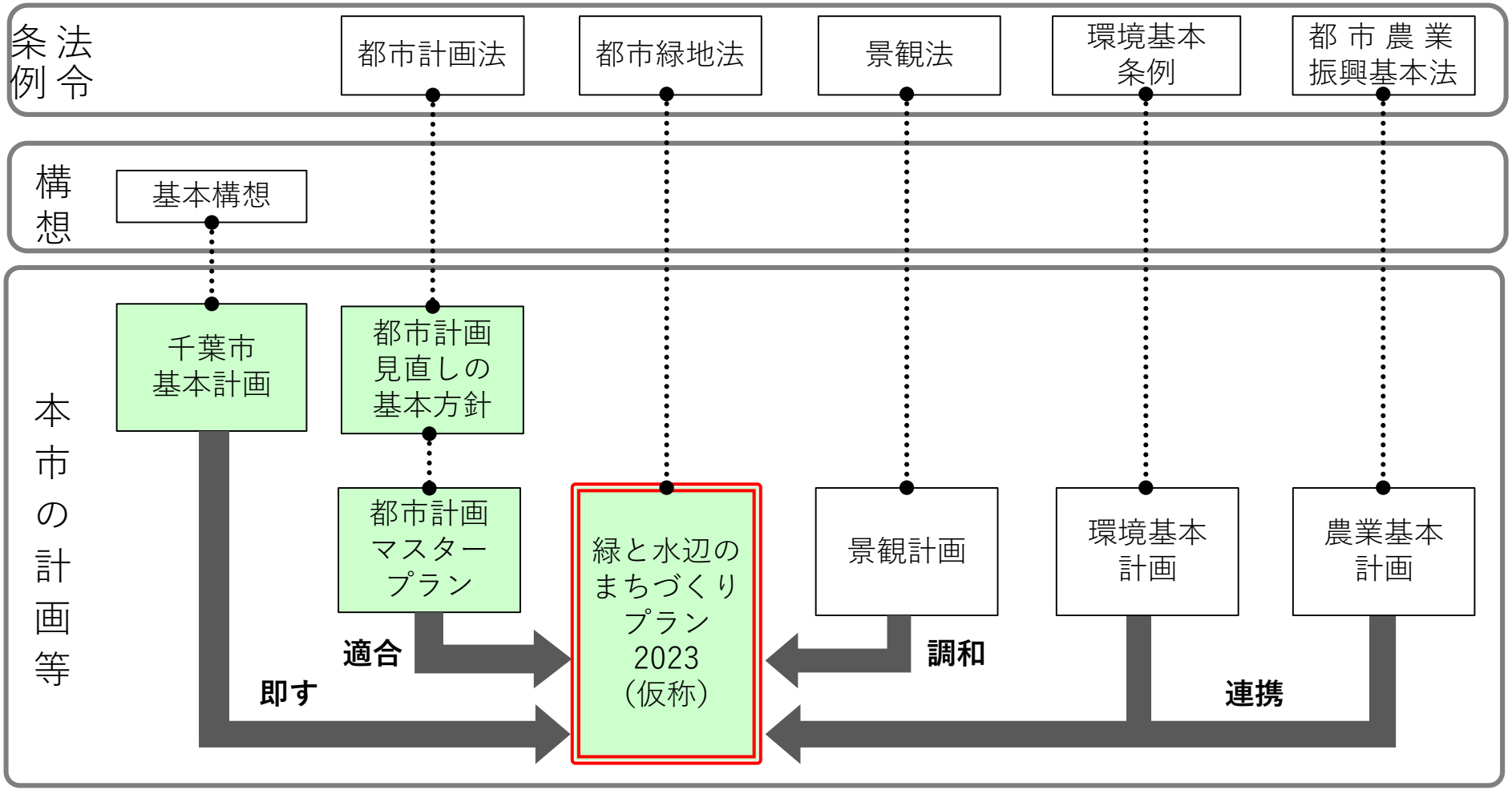
P-PFIによる民活推進、都市農地保全・活用等

○ 令和元年7月　**グリーンインフラ推進**戦略（国土交通省）

自然環境が有する多様な機能を活用して社会課題の解決を図る

庁内の関連計画の動向

○ 令和5年4月に千葉市基本計画（10年計画）がスタート
○ 庁内の関連計画も改訂



千葉市基本計画

○ みどり（緑と水辺）・しごと（産業）・くらし（生活）の3分野から、まちの骨格となる将来の都市構造を提示

・豊かな緑・水辺との共生（みどり）
・産業集積、都市機能の向上（しごと）
・身近な生活拠点の機能向上（くらし）

＋

・公共交通、放射・環状の道路網
・次世代交通、通信ネットワーク

千葉市型コンパクト・プラス・ネットワーク

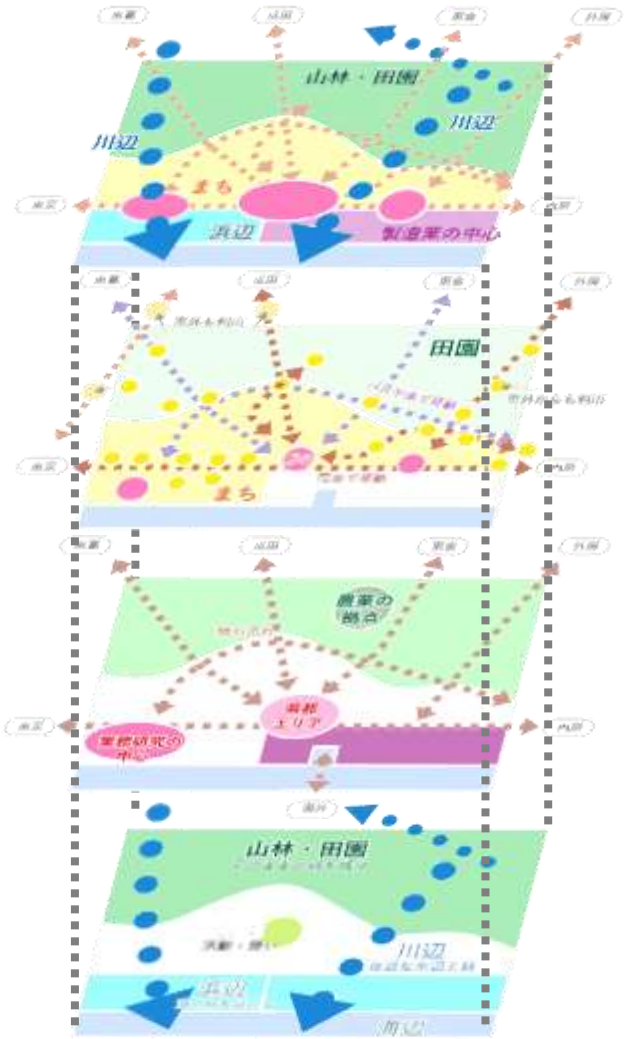
～下総台地の緑風、東京湾の浜辺、
人々が行き交う“ちば”に住まう～

将　来　像

くらし

しごと

みどり



千葉市都市計画見直しの基本方針

○ 今後の都市づくりでは「**都市デザイン**」の視点を取り入れる
○ 都市づくりの方向性を3つ提示

都市デザインの理念

ここにふさわしい都市の美しさと心地よさへの挑戦からはじまる
ひと中心の豊かな千葉の実現

まちが備えるべき要素

① **すごしたくなる緑と水辺がある**
② 身近な地域で買い物や用事をすませることができる
③ ひと・コト・モノ・情報がつながる
④ 多様な人々が偶然出会う居心地の良い空間がある
⑤ 「千葉市といえばここ」がすぐに思いつく

～市民がシビックプライドを持つ「わが街・千葉」～

都市づくりの方向性

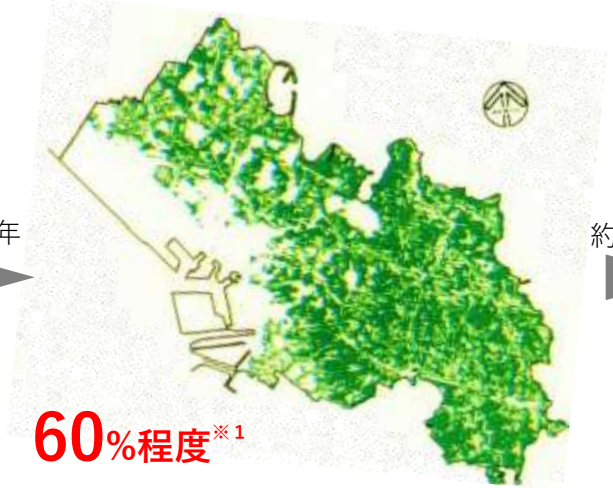
緑と水辺の豊かなまちづくり	コンパクトで賑わいのあるまちづくり	安全なまちづくり

本市の緑と水辺の現況（緑被地の変遷）

○ 高度経済成長期の都市拡大により緑被地が減少
その後、関連施策の実施等により、市域の半分を緑被で維持

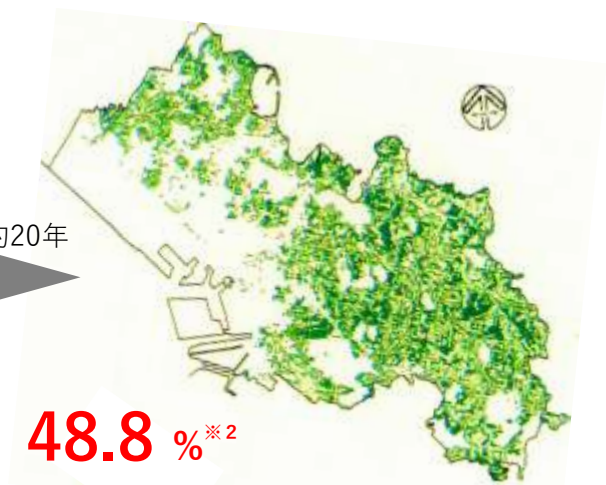
昭和19年（1944）

約30年



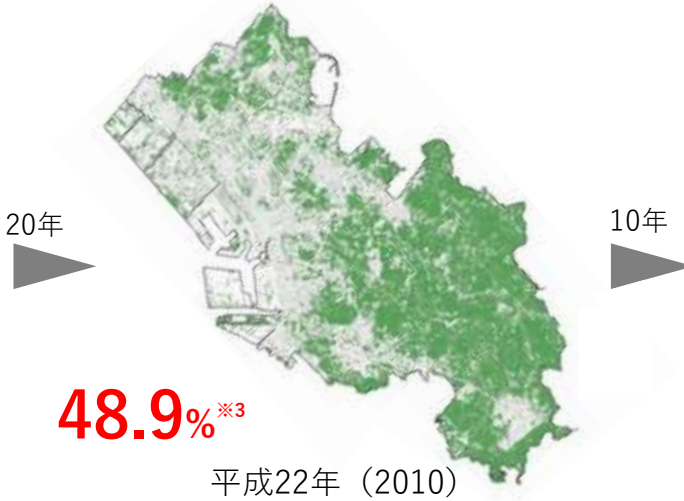
昭和47年（1972）

約20年



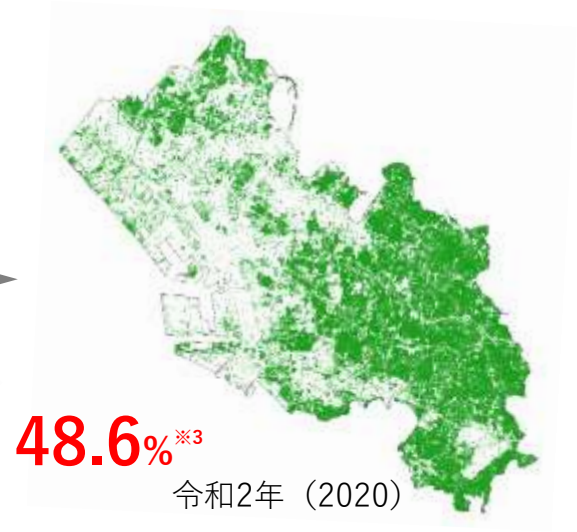
平成2年（1990）

20年

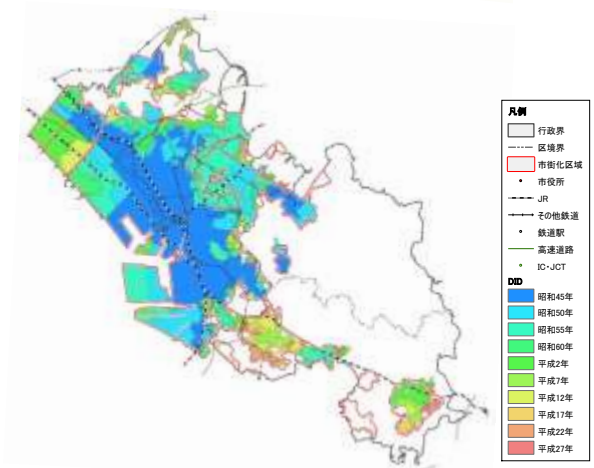


平成22年（2010）

10年



令和2年（2020）

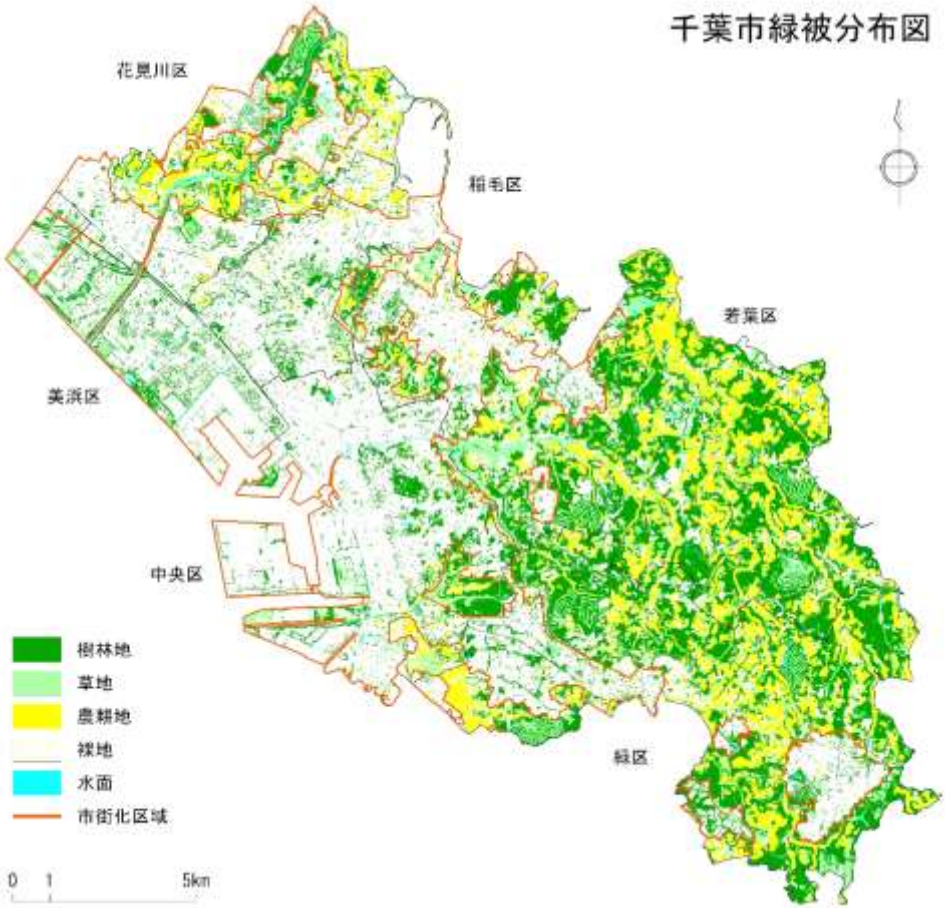


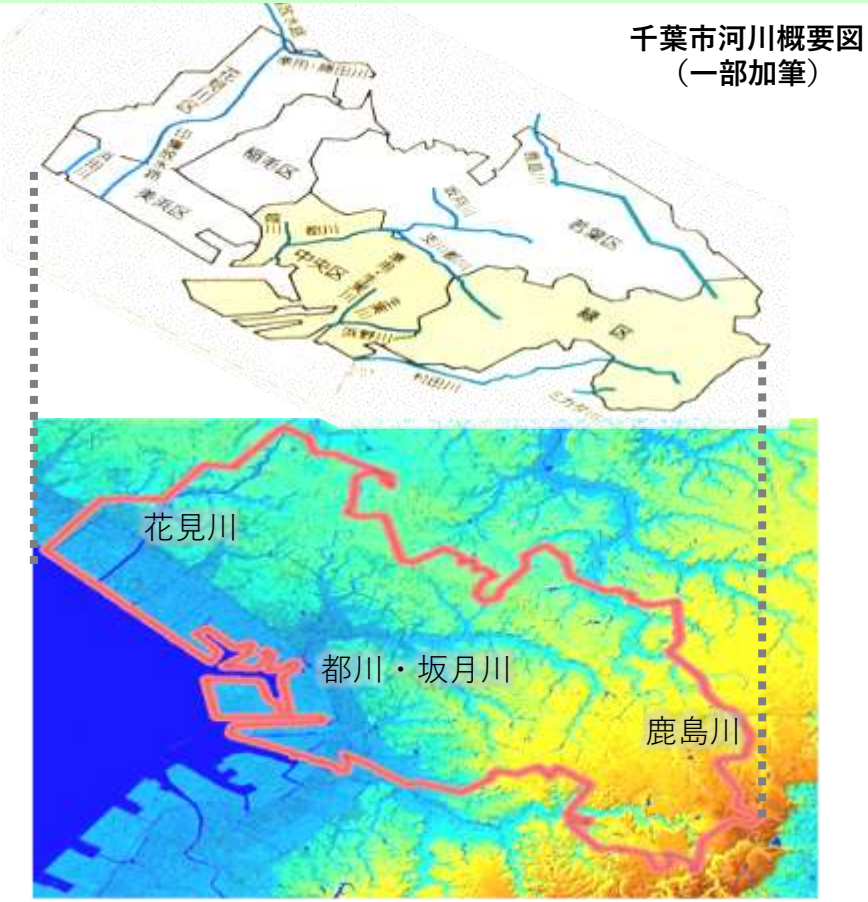
DID区域拡大図

注記※１：図面を目視し、数人で合議して決定した値、※２：都市計画基礎調査から算定、※３衛星画像から算定（緑被判定の最小単位は10×10メッシュ）

本市の緑と水辺の現況（緑被地の現況）

○ 市内の緑被地は、市東部に集積する
　主要河川上流、東京湾岸、市街化区域境にも分布





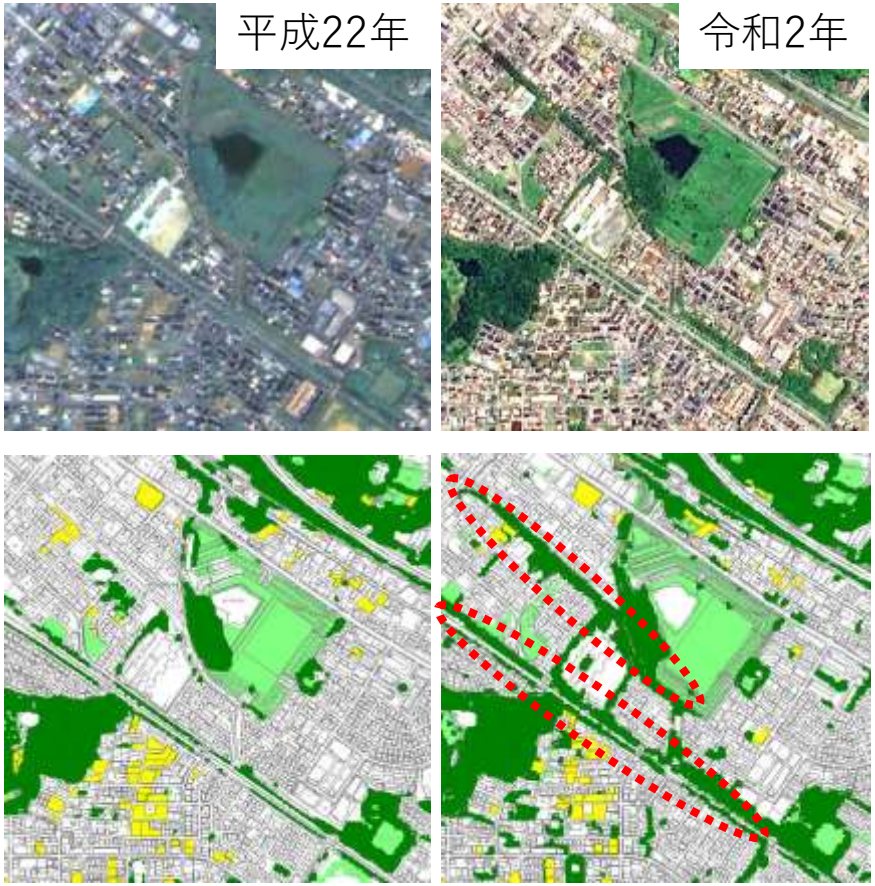
緑被地		単位	緑　被　地				裸地	水面	その他
				樹林地	草地	農耕地			
市域	27,178	ha	13,217.9	7,248.3	2,336.1	3,633.5	423.8	167	13,369.3
	率	%	**48.6**	26.7	8.6	13.4	1.6	0.6	49.2
参考（10年前からの増減）			84 ha減	278 ha増	206 ha増	568 ha減	202ha減	36ha増	219ha増

出展：国土地理院
デジタル標高地形図関東

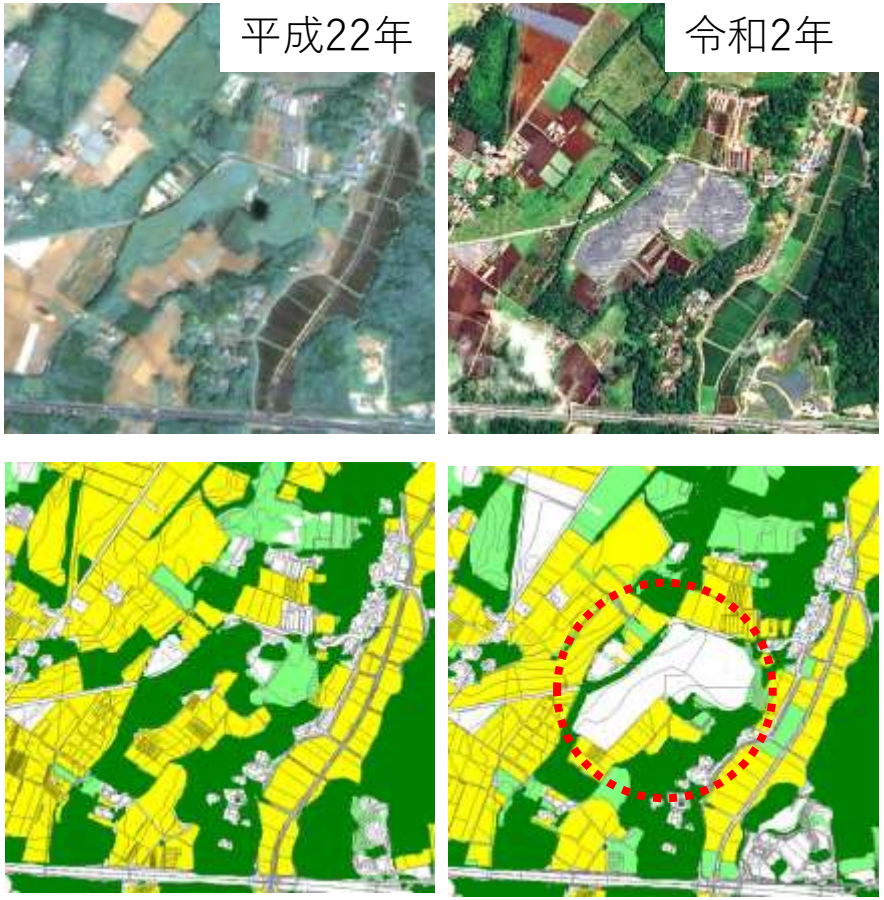
本市の緑と水辺の現況（近年の緑被地の増減要因）

○ 主な増加要因：緑関連施策の実施や木々の生長
主な減少要因：宅地開発や太陽光発電の設置

緑被地が増加したケース



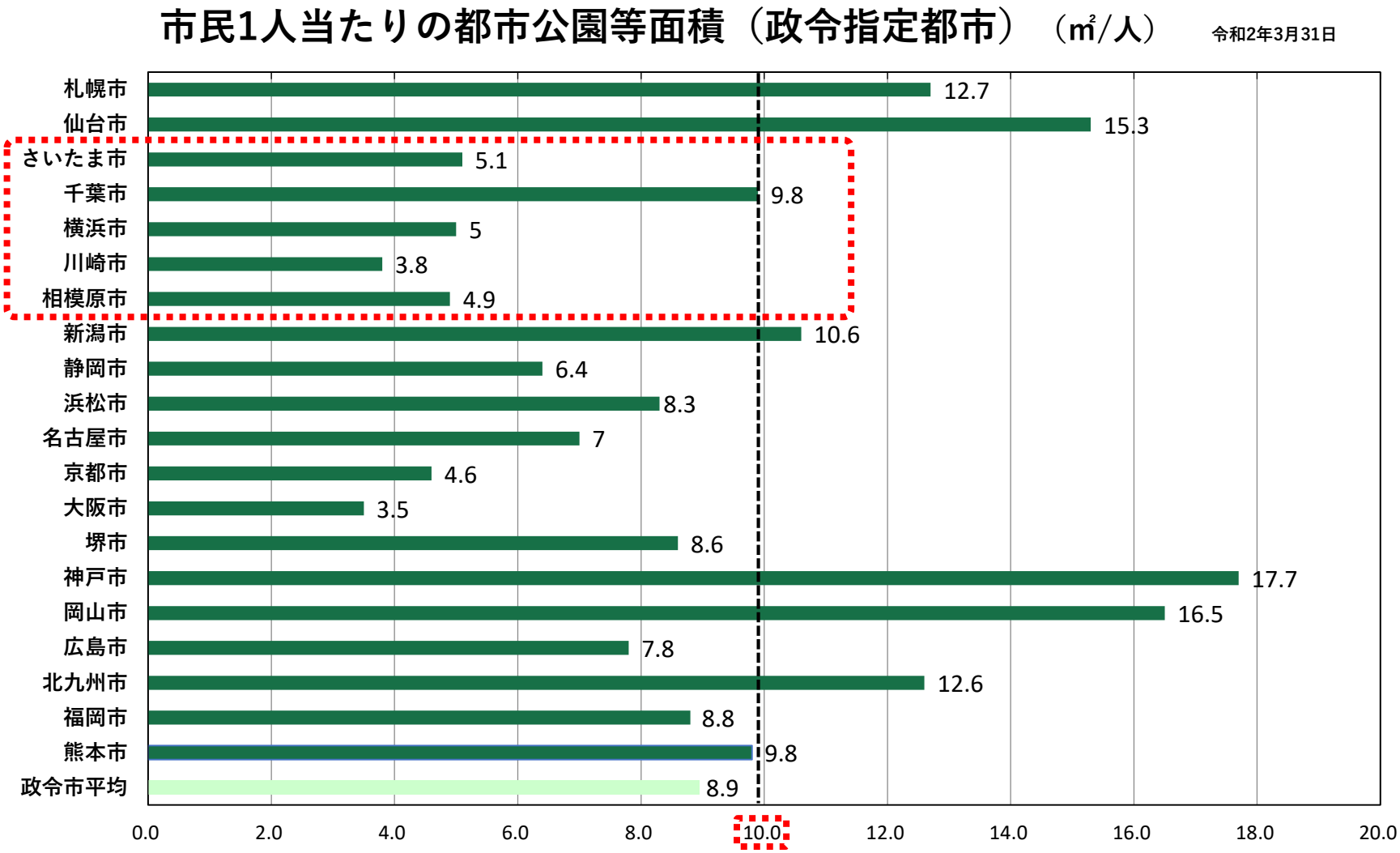
緑被地が減少したケース



凡例：森林　草地　農地

本市の緑と水辺の現況（都市公園等）

○ 市民一人当たりの都市公園等敷地面積は9.8㎡／人であり、条例の数値目標10㎡／人に到達しつつある（首都圏最上位）

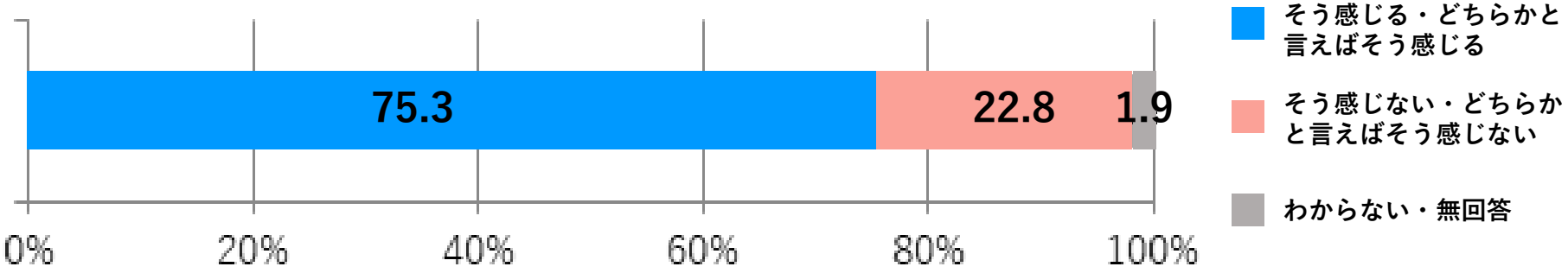


出展：国土交通省都市公園データベースを基に本市が一部修正

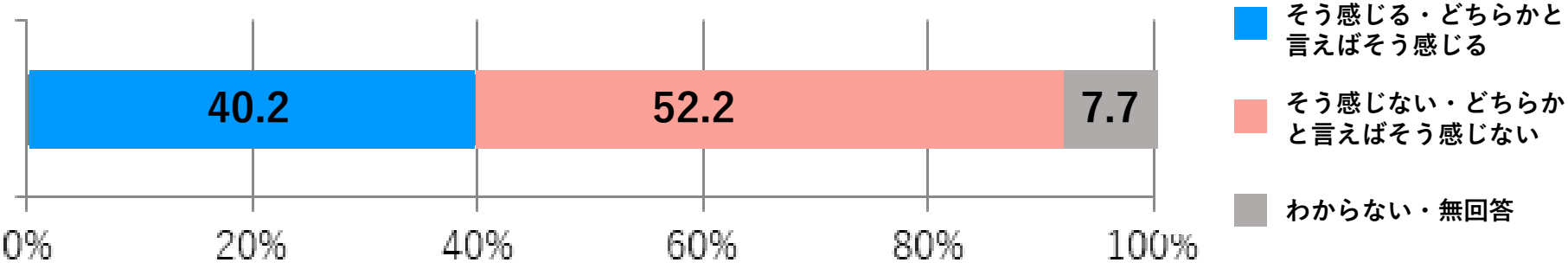
市民意識（千葉市まちづくりｱﾝｹｰﾄ 平成30年9月）

○ 緑　：市民の約75％が豊かだと回答
○ 水辺：市民の約40％が魅力的だと回答

■市内の緑が豊かだと感じるか（N=3,398）



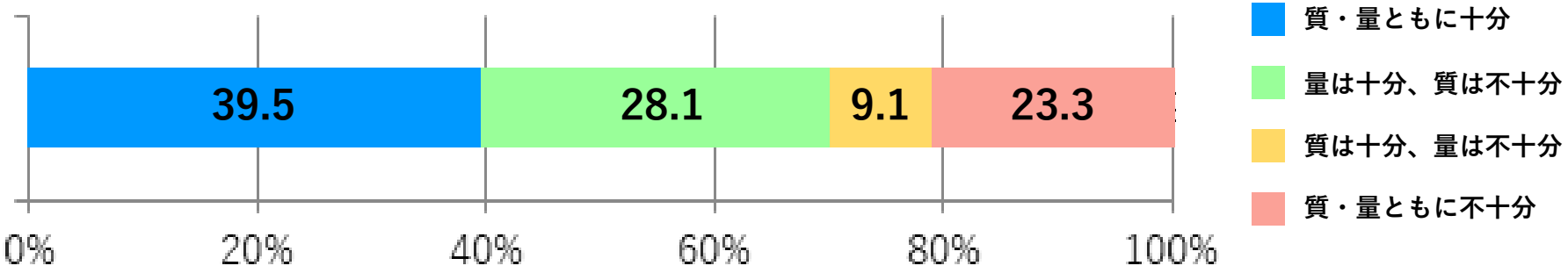
■市内の水辺が魅力的だと感じるか（N=3,398）



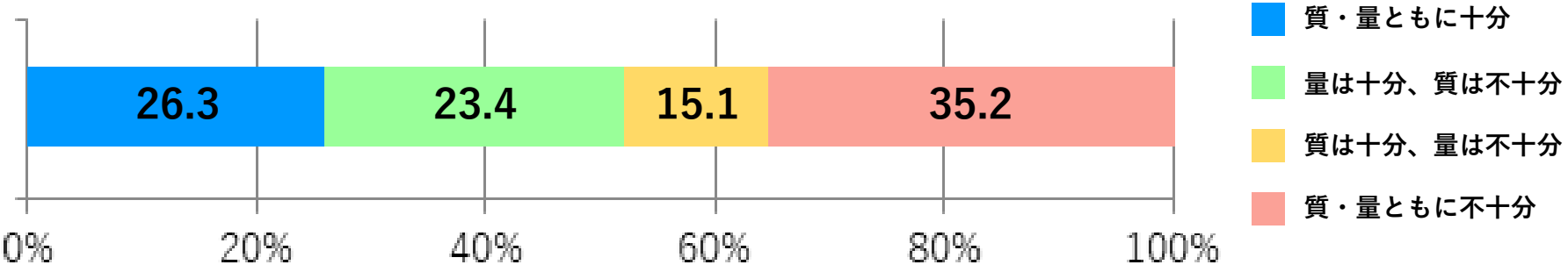
市民意識（WEBｱﾝｹｰﾄ 緑とのかかわり 令和3年5月）

○ 約10年前の調査と比べると、量・質ともに状況が改善
質・量十分 26→40％、量十分 50→68％、質十分 41→49％

■市内の緑の量・質についてどう思いますか（N=1,047）



※ 平成21年3月調査との比較（N=1,450）



市民意識（WEBｱﾝｹｰﾄ 緑とのかかわり 令和3年5月）

○ コロナ禍では生活圏で触れ合いやすいところの緑の充実が必要
身近な公園＞大規模な公園＞街路樹のある通り

■市内で次世代に引き継いでいくために充実させたいと思う緑を選んでください。
3つまで（N=1,047）

選択肢	選択数	割合
歩いて行ける身近な公園	639	61.0%
施設の整った大きな公園（千葉公園、花島公園、泉自然公園、昭和の森、稲毛海浜公園など）	583	55.7%
街路樹が整備された通り（駅前広場など）	311	29.7%
里山（森林や雑木林）	278	26.6%
動物公園や植物園（動物公園、都市緑化植物園、花の美術館など）	252	24.1%
保育園・幼稚園・小中学校などの緑	131	12.5%
農地（畑や田んぼ）	120	11.5%
住宅地や事業所の緑	116	11.1%
公共施設の緑（市役所、区役所、公民館など）	108	10.3%
街なかの空き地	97	9.3%
自宅の庭木（バルコニーの草花も含む）	62	5.9%
特になし	24	2.3%

○ コロナ禍において充実が求められる水辺
海辺＞海辺の大きな公園＞大きな池のある公園＞川辺 と回答

■次世代にも引き継いでいくために充実させたいと思う水辺を選んでください。
3つまで（N=1,013）

選択肢	選択数	割合
海辺（幕張の浜、検見川の浜、いなげの浜、中央港など）	650	64.2%
海辺の大きな公園（幕張海浜公園、稲毛海浜公園、千葉ポートパークなど）	549	54.2%
大きな池のある公園（千葉公園、動物公園、泉自然公園など）	427	42.2%
川辺（花見川、都川、鹿島川など）	308	30.4%
川辺の大きな公園（花島公園、都川水の里公園）	150	14.8%
街なかを流れるデザインされた水路	125	12.3%
ビオトープ（坂月川ビオトープ、公園のビオトープ）	118	11.6%
特になし	51	5.0%
調整池（こてはし台調整池、大和田調整池、大高調整池）	38	3.8%

市民意識（WEBｱﾝｹｰﾄ 水辺や花とのかかわり 令和3年6月）

○ コロナ禍では、リラックスできる環境や景観の保全が求められ、日常生活で居心地がよいと感じられる環境の充実が必要

■「海辺」や「海辺の公園」において、充実したらよいと思うことを選んでください。3つまで（N=1,013）

選択肢	選択数	割合
ベンチなど、リラックスして過ごせる環境	528	52.1%
海辺の景観を保全する取組み	413	40.8%
トイレやシャワー	360	35.5%
海の見えるレストラン	353	34.8%
海辺でのイベント	191	18.9%
海釣りができる環境	175	17.3%
海水浴ができる環境	166	16.4%
マリンスポーツや、ビーチスポーツの環境	153	15.1%
観光船による海めぐり	141	13.9%
分からない	34	3.4%

■「川辺」や「川辺の公園」において、充実したらよいと思うことを選んでください。3つまで（N=1,013）

選択肢	選択数	割合
ベンチなど、リラックスして過ごせる環境	530	52.3%
景観を保全する取組	477	47.1%
トイレや手洗い場	463	45.7%
川辺に近付きやすい環境	320	31.6%
川の見えるレストラン	222	21.9%
釣りができる環境	176	17.4%
リバースポーツの環境（カヤック、カヌー等	147	14.5%
ゆったりとした川下りができる	145	14.3%
分からない	36	3.6%

本市のまちづくりに関する課題

○ 千葉市基本計画の策定過程において考慮したまちづくりの課題

リスク増大	・地球温暖化による記録的豪雨の発生や、生態系の変化への対応 ・新型コロナウイルス等の感染症に対応した空間利用策
土地利用	・人口減少のもと、高度経済成長期に拡大した市街地において、空き家や空閑地の発生が見込まれ、適切に管理がなされない場合、不法投棄の温床等、都市環境を悪化させる恐れがある。
インフラ	・政令指定都市への移行時に公共施設を積極的に整備した結果、老朽化が一斉に進み、今後の人口減少に伴う財政制約のもと、機能維持や更新費が多額となり、市財政を圧迫しかねない。
福祉	・平均寿命が延びる傾向にあり、高齢人口の割合と人数が増加するなか、健康を維持することが課題。また、社会参画意欲に見合う活動の場の提供が十分でない。
地域社会	・高齢化が一層進展していくことにより、地域社会の運営を支える地域コミュニティの弱体化が懸念。

緑と水辺を取り巻く課題

○ 緑と水辺の現況、ｱﾝｹｰﾄ結果等から整理した課題

リスク増大	・地球温暖化による記録的豪雨の発生や、生態系の変化への対応 ・新型コロナウイルス等の感染症に対応した空間利用策
土地利用	・市街化調整区域での開発や太陽光発電施設の整備によって緑が消失 民有地の所有者や事業者の理解を得ながらの緑地の保全や緑化が課題。 ・海辺や浜辺と比較して、川辺への愛着が持たれていない。
インフラ	・公園ストックの老朽化が進み、公園ストックの更新が必要だが、人口減少下での財政圧迫が懸念。樹木の生長により公園と周囲の空間とに隔たりが生じている。 ・街路樹ストックが大径化し、木の根による歩道不陸の発生や、交通標識の視認性低下等、道路通行・歩行環境が悪化。
福祉	・公園ストックは、設置から３０年を超えたものが大半を占め、設えの古い施設が多く、誰もが活用できるつくりとなっていない。
地域社会	・公園、森林・林地等の緑地、農地、そして花の空間等における、 緑と水辺に関わる活動の担い手について、高齢化や担い手不足が進み、 既存のコミュニティの弱体化が懸念。

説明の流れ

1　現計画の概要と取組状況

2　緑と水辺を取り巻く現況と課題

3　新たな計画策定に向けたポイント

新たな計画に取り入れていく考え方や概念

○ 緑と水辺の多機能性をまちづくりに活かす（グリーンインフラ）という考え方

ストックがある程度蓄積されてきた段階では、緑と水辺を用いて、まちづくりの課題解決を図る

持続可能な開発目標（SDGs）推進の機運も高まる中、グリーンインフラの考え方はSDGsとも親和性が高い

○ 都市デザインという考え方

都市の生い立ちを踏まえ、まちづくりを進めていく都市デザインの視点を重視

出展：外務省　SDGsの概要及び達成に向けた日本の取組

グリーンインフラとしての緑と水辺の機能

○ 緑と水辺の多機能性は「グリーンインフラ」と呼称していく
○ 市民が生活で実感できる緑と水辺の機能を明示していく

	当初計画（昭和55年3月）「千葉市緑のマスタープラン策定報告書」	第2次計画（昭和62年3月）「千葉市緑と水辺のﾈｯﾄﾜｰｸ21世紀計画」	第3次計画（平成9年12月）「千葉市緑の水辺の基本計画」	第4次計画（平成24年3月）「千葉市緑の水辺のまちづくりﾌﾟﾗﾝ」	次期計画（令和5年4月）「千葉市新緑の水辺のまちづくりﾌﾟﾗﾝ」	グリーンインフラ
都市の骨格・形態形成	○	○			○ 都市の形態や景観の形成	保全型（緑や水辺の存在効果によるまちづくりへの寄与）
景観形成 歴史風土	○	○	○	○		
環境保全	○	○	○	○	○ 水循環・熱環境・脱炭素	
生き物		○	○	○	○ 生物多様性	
レクリエーション	○	○	○	○	◎ 生活の質の向上	活用型（緑や水辺の活用効果によるまちづくりへの寄与）
					○ 健康寿命	
					○ 子育て	
防災	○	○	○	○	○ 災害への備え	
農作物生産				○	○ 農とのふれあい	

緑と水辺の骨格（全市レベル）

○ これまでの緑と水辺の基本計画で捉えてきた緑と水辺の骨格を整理

当初計画
（昭和55年3月）

海、河川、緑地の
現況分布等に基づき
骨格とする４軸を設定
→　グリーン・ストラクチャー

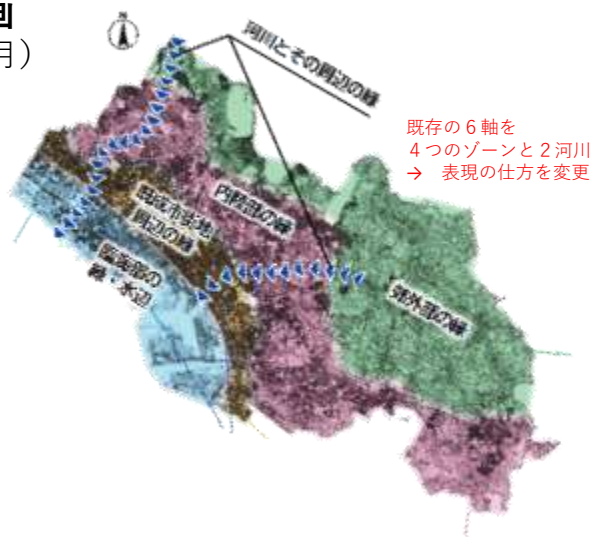
第2次計画
（昭和62年3月）

鹿島川沿いの緑地軸が追加、
花見川、都川それぞれに軸を設け、
合計６つの緑地軸を設定

第3次計画
（平成9年12月）

坂月川沿いに軸が延伸
６軸（放射状２軸、環状４軸）を
性格付け

第4次計画
（平成24年3月）

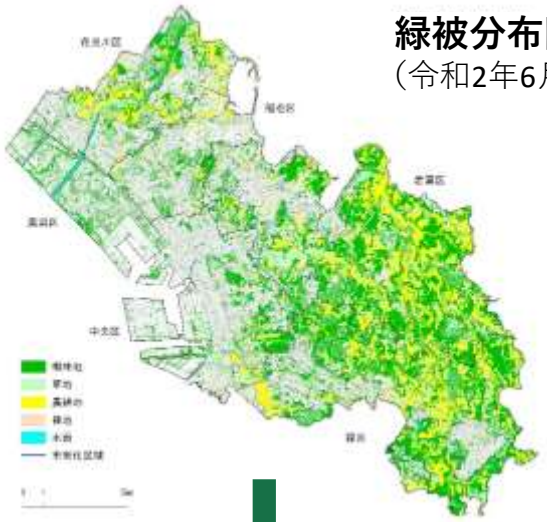


既存の６軸を
４つのゾーンと２河川に変更
→　表現の仕方を変更したのみ

目指す緑と水辺の姿（全市レベル）

○第2次計画をベースとしつつ、自然環境の構造から緑被分布を読み解くと、
本市の緑と水辺は、3河川と東京湾沿いの水辺、市街化区域境の緑とに骨格付け

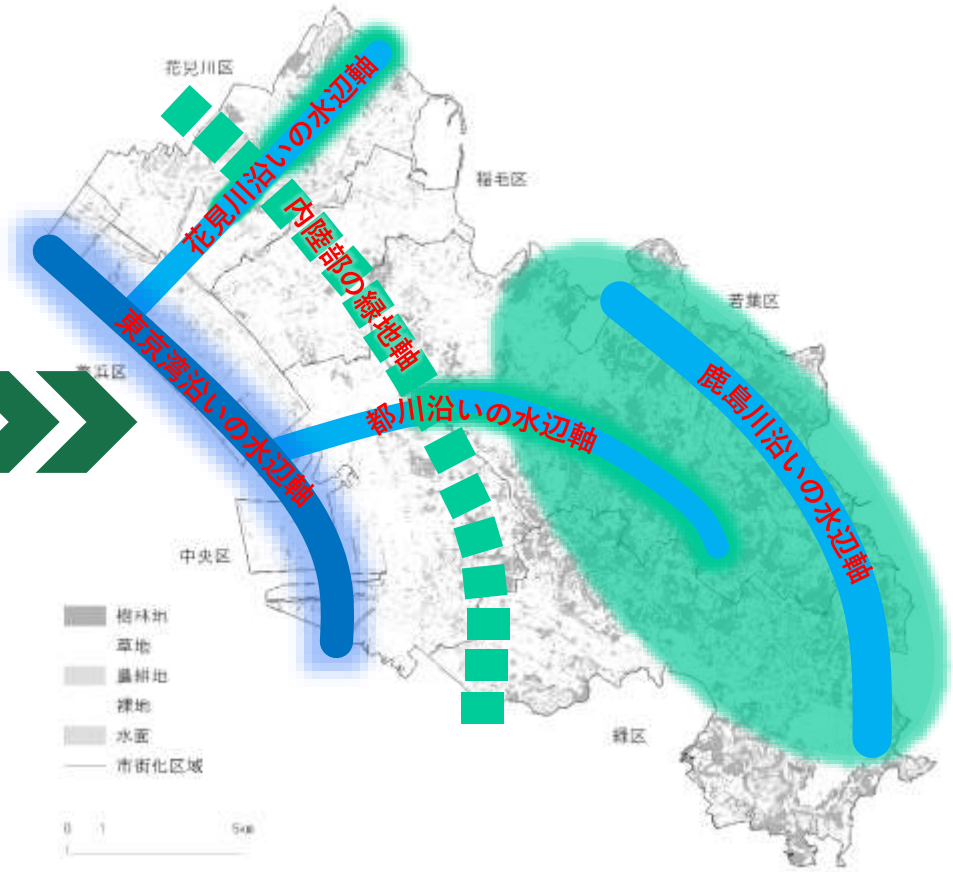
緑被分布図
（令和2年6月）



＋

第2次計画
（昭和62年3月）

千葉市の緑と水辺の骨格



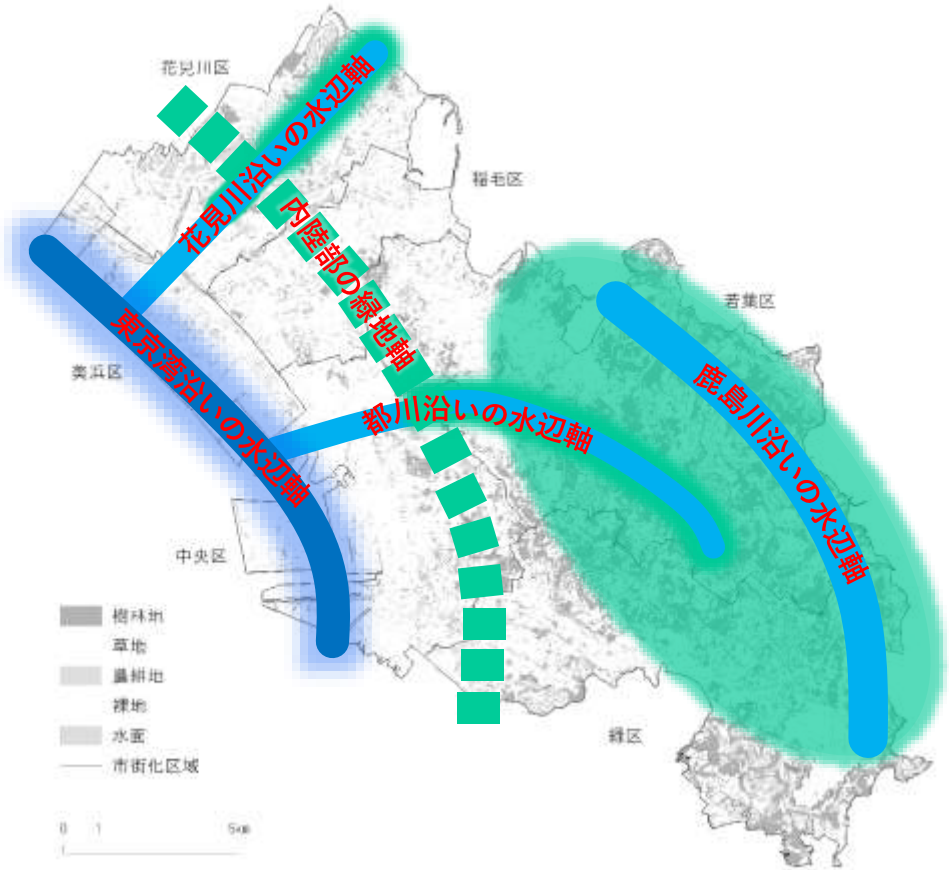
目指す緑と水辺の姿（全市レベル）

○ 首都圏レベルでは、花見川・都川・鹿島川沿いの水辺軸、海辺の軸が対応
○ 特に鹿島川の水辺軸周辺の緑は首都圏レベルの視点からみても重要性が高い

「首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン」（平成16年3月）

図2 「保全すべき自然環境」

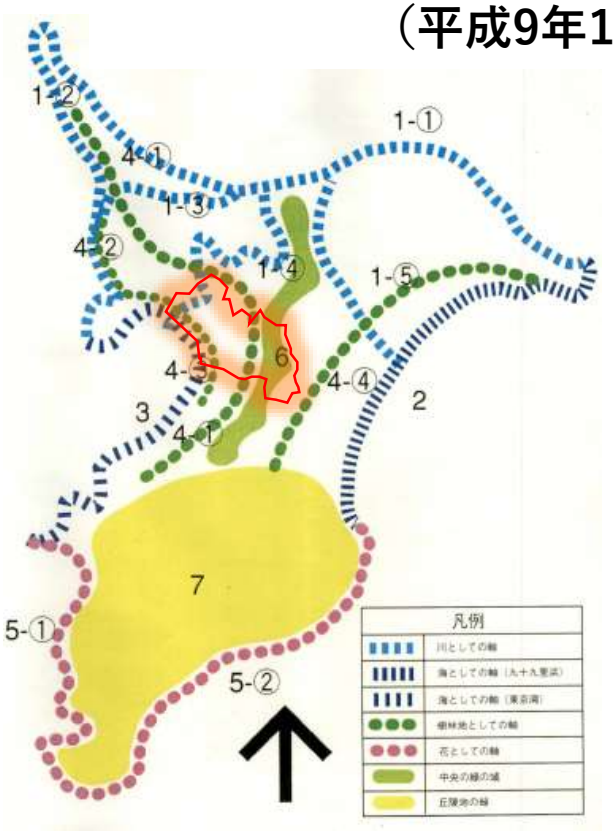
千葉市の緑と水辺の骨格



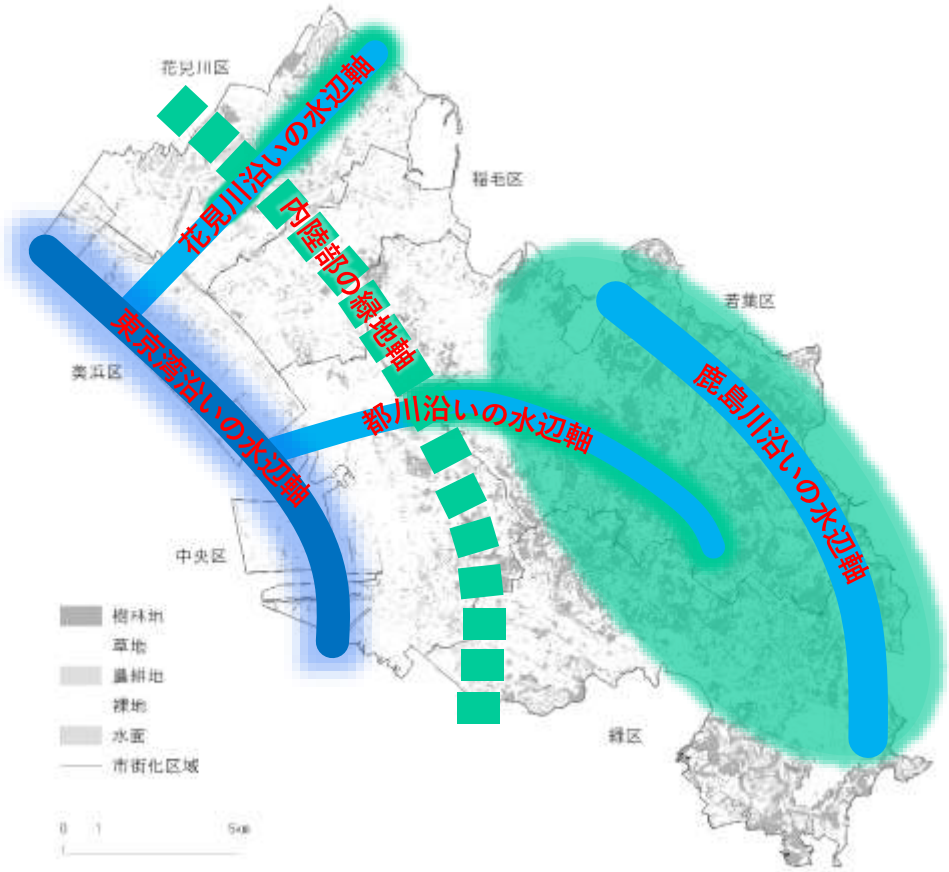
目指す緑と水辺の姿（全市レベル）

○ 千葉県レベルでは、骨格の内、花見川・鹿島川の水辺軸、海辺の軸、内陸部の緑地軸が対応

「千葉県公園緑地の将来像」（平成9年12月）



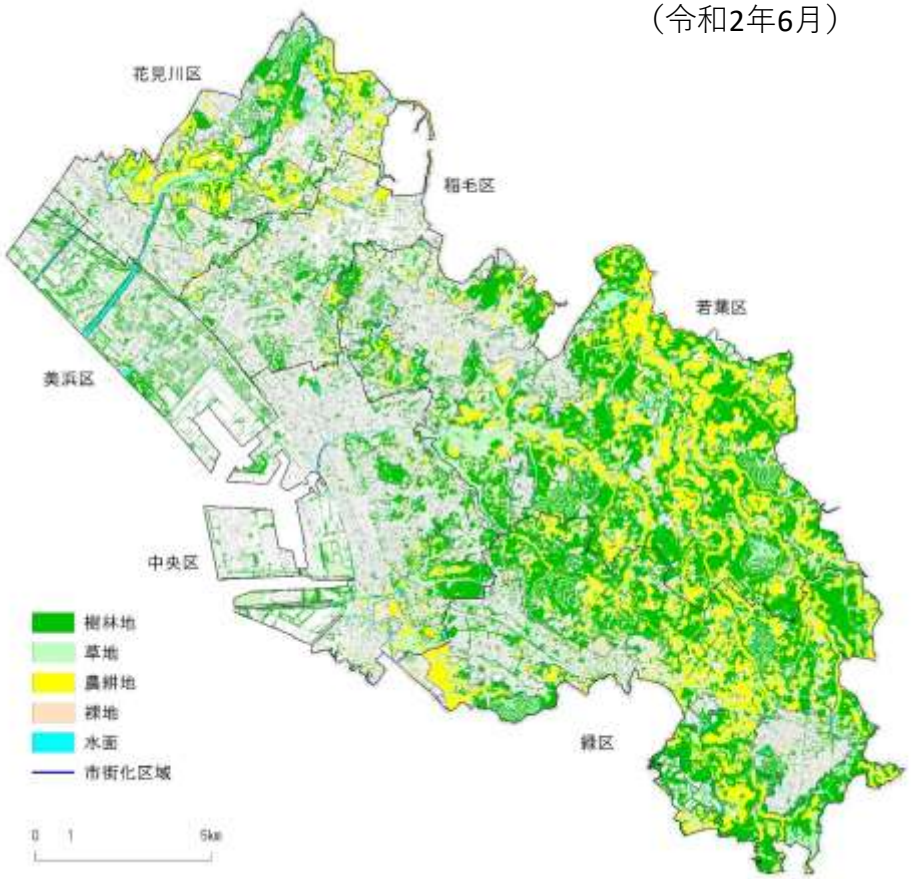
千葉市の緑と水辺の骨格



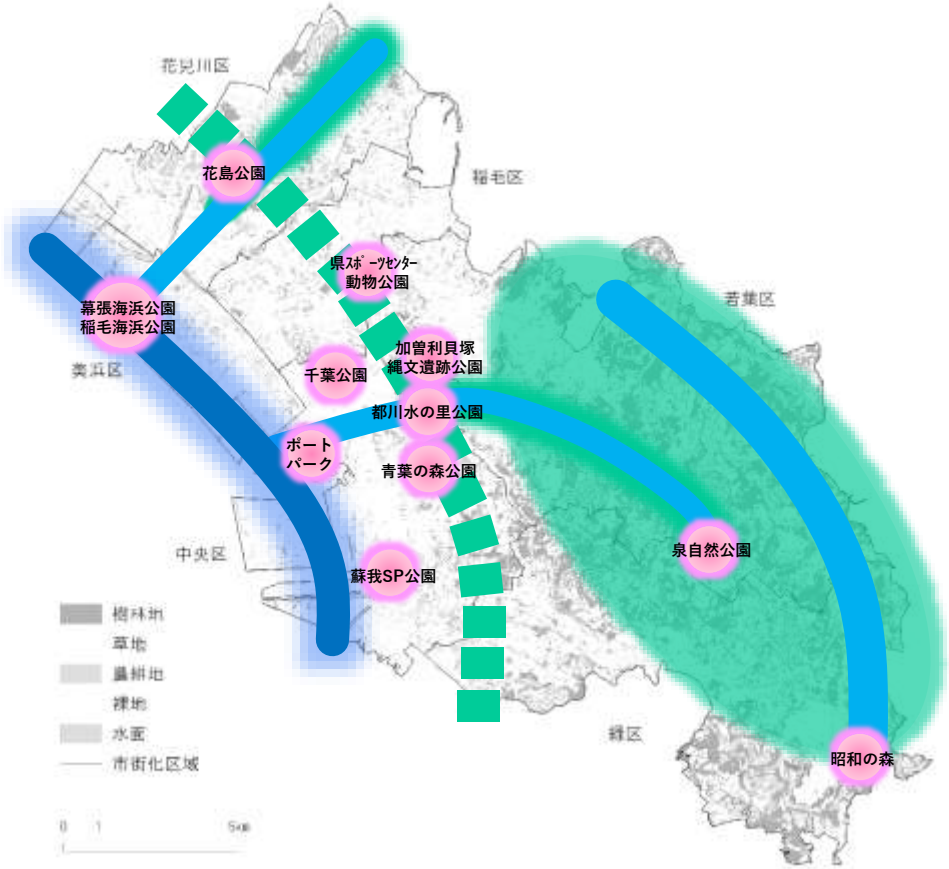
目指す緑と水辺の姿（11拠点）

○ 骨格５軸の結節点や軸上を基本に主要な公園等を配していることが本市の特徴
○ 時代が変化しても、本市の特徴として存続させていくべき緑と水辺の骨格と11拠点

緑被分布図
（令和2年6月）



千葉市の緑と水辺の11拠点



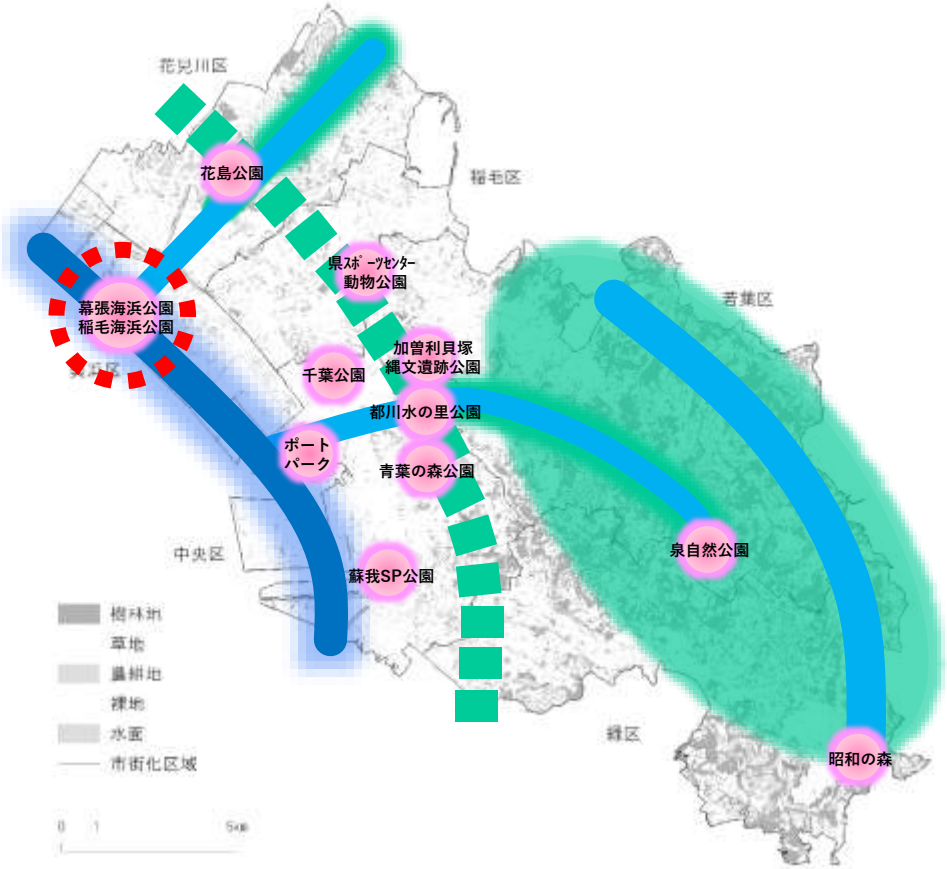
目指す緑と水辺の姿（11拠点）事例

○ 東京湾の海辺軸と花見川沿いの水辺軸の結節点に位置する稲毛海浜公園
○ 現在は、海へ延びるデッキ整備を実施中

①海辺の眺望を楽しめるレストラン
（ザ・サーフ オーシャンテラス）

②リニューアル事業中

千葉市の緑と水辺の11拠点

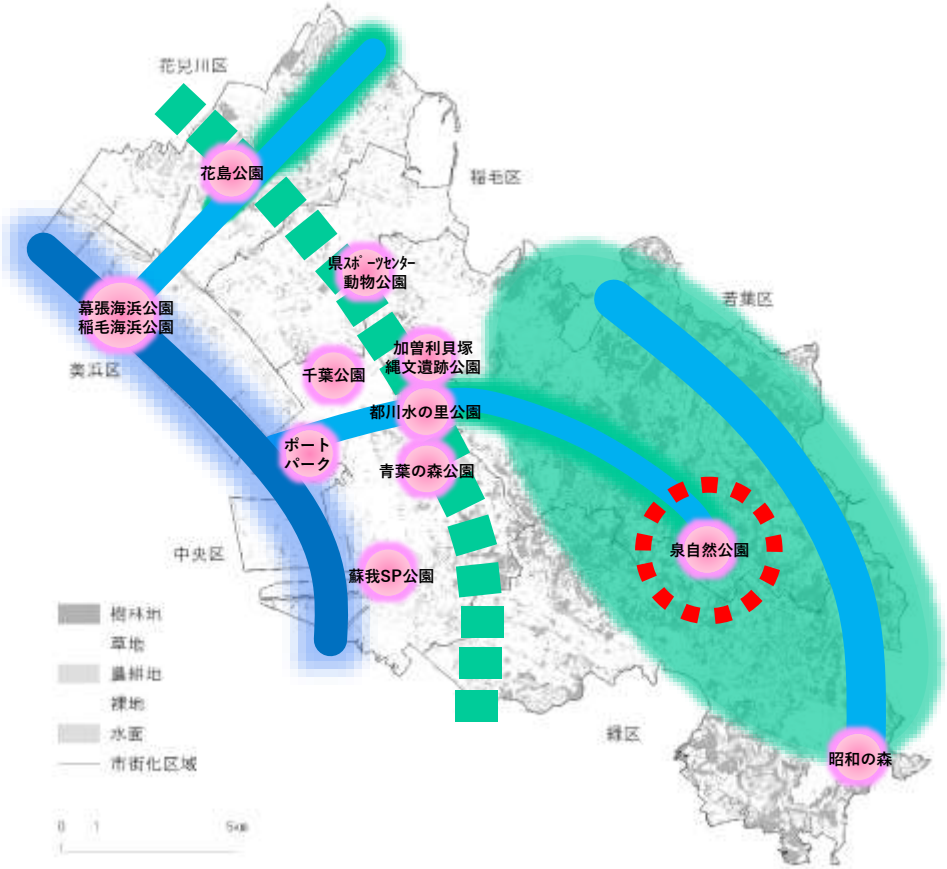


目指す緑と水辺の姿（11拠点）事例

○ 都川の水辺軸と鹿島川沿いの水辺軸の結節点に位置する泉自然公園
○ 森林環境を活用した再整備を推進し、民活でフォレストアドベンチャーを整備

自然を生かしたアスレチック
（フォレストアドベンチャー・千葉）

千葉市の緑と水辺の11拠点



第１回策定委員会での議論

○ ４ 施策の方向性の検討にあたって重要視すべきこと

第１回策定委員会

第２回策定委員会

説明事項

1 現計画の概要と取組

2 緑と水辺の現状と課題

3 取組の方向性等

4 施策の方向性

計画骨子案

ご清聴ありがとうございました